

MONTHLY

アフリカ

vol. 44

NOW

臨時会員総会

●日時: 1999年3月27日(土) 10時半会場 11時開始 (1時から1時間昼食)

●会場: 上野区民館和室 台東区上野 2-14-21 当日電話: 090-2627-5522



プログラム (案)

1. 定数確認
2. 開会
3. 代表理事挨拶
4. 議長選出
5. 議長挨拶
6. 議事承認
7. 討議
 - ・98年度活動/会計報告
- <質疑応答>
 - ・99年度以降の体制・活動について
 - +ビジョン報告
 - +趣意書について
 - +体制について
 - +各WGの活動について
 - +予算
- <質疑応答>
- <承認及び役員選出>
 - ・その他
8. 閉会

CONTENTS

98年度活動報告	2~3
98年度会計報告	4
1999年以降の組織改革について・趣意書案	5
ここが変わる! AJF組織図	6
ここが変わる! AJFの1999年度以降	7
新しい組織運営・事業運営	8~9
NGO連絡会	10
会報委員会	11
ワーキンググループ事業案	12~18
99年度予算	19~21
新規WGへの呼びかけ	22~23
お知らせ	24

1999年2月25日発行 発行責任者: 吉田 昌夫 編集責任者: 尾関 葉子

印刷協力: (株)プリンティングサービス

発行: アフリカ日本協議会

〒110-0015 東京都台東区東上野1-20-6 丸幸ビル3階

TEL 03-3834-6902 FAX 03-3834-6903

E-Mail: PXC06143@niftyserve.ne.jp

http://www.zzz.or.jp/~kazutiyo/AJF.html (会員作成)

定価 500円

<<お願い>>

昼食の時間を歓談に当てたいと思いますので、昼食はご持参でお願いします。(会場付近で買うこともできます。)

98 年度活動中間報告 (6 月以降)

① TICAD に向けての活動

詳細は会報42号の挟み込み(速報)及び43号参照。TICAD II 本会合にAJFを含む日本のNGO10団体、アフリカ10団体、カナダ1団体が提言書を作成し、出席。発言や提言発表の機会を持った。フォローアップとしてアフリカ連絡会(仮称)が設立。二つの分科会(①NGO提言書を読み下す、②文化)が発足しており、①のグループでは既に、債務問題勉強会も行っている。

② ネットワーク調査報告書

アフリカ側参加団体 : ACODE(チャド)、Enda-graf(セネガル)、PELUM Association(ジンバブエ)

● **背景** : 本活動は、97年度調査にセネガルを訪れたAJF調査団とセネガル側のカウンターパートであるEnda-grafとの意見交換の中で出た、「AJFは他国の調査結果を手に入れているが、それが我々と共有されることがない。南-北のつながりだけでなく、南-南のつながりができるように考えてもいいのではないか」という先方からの意見に応えようというのがきっかけになった。

● **活動の目的** : 現地調査を、単なる北の南に関する情報収集に終わらせるのではなく、その成果をまずアフリカの97年度トレーニング調査に参加したアフリカのパートナーたちの間で共有し、それを土台に研修活動分野の調査、分析を一步すすめることを目的とする。

また、トレーニング調査フォロー活動は初めての試みであるので、この「試み」が可能か、また、それを通じてAJFが南-南ネットワーク構築のサポートをできるかどうかの試金石とする。

● **活動内容** : 活動開始にあたってアフリカNGOには、AJFから具体的な活動が提案され、了承されている:(1)各NGOが行っているトレーニングを簡単に説明した文書(A4で最大2-3頁)の共同作成、(2)すべてのNGO間で、その情報を共有、(3)同時に共同報告書の作成方法を議論・決定、(4)共有したトレーニングに関する情報について各団体からコメントをもらい、共通の問題点などについては解決のための議論を進める、(5)1999年3月をめどにまずは日本語の下地を作成。4月以降ボランティアを募って英・仏語訳をアフリカNGOからコメントを得て最終的な共同報告書(英語、仏語)をまとめる(ネットワーク調査WGの立ち上げを予定)。

● 現在の状況:

ZIM: 97年度調査で収集した資料を基に資料(日本語、英語)を作成中

CHD: 研修プログラムに関する説明文書(日本語)を作成中

SEN: 研修プログラムに関する説明文書の作成を依頼済み

3月末までに日本語まとめを作成する。

③ 会報の発送

6月1回(38号)、8月1回(39号)、9月1回(40号)、10月1回(41号)、11月1回(42号)、2月1回(43号)、3月1回(44号)

会員獲得を目的に、アフリカに赴任中の青年海外協力隊事務局/寮に対する会報送付

④ 官民協力、NGO との連携

【G I Iへの参加】Global Issues Initiative on Population and AIDS

・回数: 政府・NGOによる定期懇談会→2回(9/17, 11/19) / NGOのみによる会合→1回(8/7)

・出席者: 楠田、尾関

・主な議題: ICPDプラス5に関するハグ会議へのNGOの参加、TICADのフォロー、ザンビアプロジェクト形成調査、国内啓発キャンペーン

【外務省NGO定期協議会】(詳細は会報42号参照)

1996年より外務省経済協力局とNGO(JANIC、関西NGO協議会、名古屋NGOセンターが中心)の間で行われている定期協議。より具体的なNGOとODAとの連携やODAの改善などが議題に挙げられてきており、NGO事業補助金のメニュー改善など、成果もあげている。11月6日、アフリカ日本協議会がJANICのオブザーバーメンバーとして参加が認められ、事務局長尾関葉子が出席した。

尚、この協議会の分科会である「ODA改革懇談会提言フォローアップ」小委員会に尾関が参加。昨年出された「21

世紀に向けてのODA改革懇談会」の提言の実現化に向けての話し合いを行う。この動きに先立ち NGO 側でも「ODA 改革するための市民・NGO 連絡協議会」が設置され、1/28 の会合に奥田が出席した。

【第1回ネットワークNGO全国会議】（詳細は会報 42 号参照）

11月6日、7日の週末、JANICの呼びかけで、初の試みであるネットワークNGOの全国会議が東京で開かれた。スポンサーは立正佼成会一食平和基金。出席したネットワーク団体はオブザーバーも含め全部で15団体。事務局長、議長など役職名称の違いはあるが、事務局を担う責任者が集合した。東京以外に拠点を置く地域のNGOを結ぶ地域ネットワークが中心で、AJFからは、事務局長尾関葉子が参加した。

【セネガル NGO との意見交換会】（詳細は会報 43 号参照）

10月20日丸幸ビル5階にてNGO活動推進センターと共催で来日中のセネガル NGO、FONGSと日本 NGO 関係者との意見交換会を開催した。FONGSはセネガルNGOの連合体。セネガル内に多くのネットワーク組織を持つ。TICAD 本会合そのものには出席しなかったが、大阪でのシンポジウムに参加。NGO提言書へのインプットを得た。

⑤イベントへの参加

- ・7月25日：アジャ・アディコンサート（お茶の水）
- ・9月1日：古沢紘造ゼミ主催アフリカフェスティバル（日比谷）
- ・10月4、5日：国際協力フェスティバル（日比谷）
- ・11月7、8日：アフリカへの敬意（ぐらする一つ、ベネトン企画、池袋）
- ・11月7、8日：みなとみらい21フェスティバル（横浜市）
- ・2月20、21日：ふじのくにワールドフェア（静岡）

すべて、物品及び協議会出版物、飲食品の販売を行ない、合計で約20万の収入を得た（事業部扱い）その他、会員が独自で物品販売を行っており、一部寄付をいただいている。

⑥講師派遣、原稿執筆

【講師派遣】

- ・かながわ国際協力基金フォーラム（模擬審査委員会）（11月17日）尾関：模擬審査員
- ・(財)名古屋国際センター「国際協力ネットワークセミナー」（12月5日）尾関：パネリスト
- ・ADMP（Advanced Development Management Program）「Japanese Official Development Aid and NGOs」（12月9日）尾関：パネリスト
- ・上智大学アイセック研究会「世界とつながる」（12月13日）尾関：パネリスト
- ・山梨学院大学（12月中に2回。尾関が国際政治学特講の時間に「国際協力」というテーマで講義を行なった。山梨学院大学での講義は今年で4回目）
- ・恵比寿社会教育会館（1月から6回連続の国際理解講座。1回目「TICAD 総括」というテーマで尾関、2回目「アフリカの民族問題」というテーマで望月運営委員が講師を担当）
- ・地球市民かながわプラザにて行われた国連シンポジウム「地球市民社会に向けて」（1月30日）尾関：パネリスト
- ・名古屋 NGO センター「NGO どまんなか会議」（2月27日～28日）尾関：2日目問題提起者

【原稿執筆】

- ・『地球市民』10月号（尾関）／・『アフリカレポート』3月号（尾関）
- その他に運営委員の楠田氏により「国際農林業協力7・8月号」（Vol.21-No.4）に「国際NGOエンダグラフとアフリカ日本協議会のセネガルにおける共同調査から」と題して96年度、97年度のセネガル調査が報告された。

同じく「国際農林業協力」で尾関が執筆予定

⑦その他

- ・茶話会：（10月27日：AJF事務局）／・関西会員の集い：（11月7日 大阪）
- ・スーダン南部報告会開催（11月18日 東京都千代田区 講師：大津司郎氏）
- ・NGO-JICA 相互研修：AJFより奥田が参加（11月27日、28日 東京）FASID 東京 NGO 研修：同奥田（11月～2月、全8回 東京）
- ・AJF・会員有志スタディツアー実行委員会共催理解講座開催（1月29日 講師：勝俣誠氏、2月8日 講師：尾関葉子）

98年度会計報告

●1998年度3月末日付け収支見込み

収支決算書

(1998年4月1日～1999年3月31日予想)

(単位:円)

支出の部		収入の部	
事業費		会費	2,146,000
TICAD	361,673	寄付	
ネットワーク調査	1,200,000	一般寄付	284,278
ODAミッション	24,758	事業部寄付	200,000
ビジョン	44,980	講師派遣	69,000
勉強会	5,070	原稿料	218,265
小計	1,636,481	小計	771,543
管理費		TICAD収入	121,652
交通費	23,440	広報収入	116,426
人件費	1,458,265	勉強会収入	13,500
出版・印刷	40,782	調査収入	600,000
消耗品費	110,291	助成金(調査)	600,000
家賃・光熱費*	913,273	ODAコンサルからの委託費	160,000
雑費	270,931	ビジョン収入	600
通信費	751,329	その他	19,400
小計	3,568,311		
コピー機解約による残金支払い	1,310,925		
出資金戻し	670,000		
当期収支差	-2,636,596		
合計	4,549,121	収入計	4,549,121

貸借対照表 (1999年3月31日予想)

(単位:円)

借方		貸方	
現金		未払金	670,000
普通預金	併せて	前期繰越金	2,667,105
郵便振替	700,509	当期収支差	-2,636,596
		次期への繰越金	30,509
合計	700,509	合計	700,509

1999年以降の組織改革について

これまでのビジョンの議論では、会員がより事業（活動）に参加しやすい体制、同時に事業（活動）に参加する者も組織運営の責任を担う形を理想として話し合いが続けられてきました。

事業（活動）運営について： これまで理事会、運営委員会、事務局を中心に行っていた事業責任・運営を、ワーキンググループ（WG）を事業の責任・運営の母体とし、会員が AJF としての WG を承認する形をとる案が提案されました。これによって、事業（活動）を希望する人が財政面も含めた運営責任を担うことが打ち出されました。

組織運営について： 当初、WG の責任者が組織運営の責任者である執行委員に自動的に就任するという仕組みが提案されましたが、専従の事務局員をおかないという体制の中で、事務局長の役割を担う人を見つけないことが最大の難題でした。理事会からもサーチコミッティを設置し、次期事務局長候補を検討しましたが、最終的に候補者が見つからず、事務局長業務を誰がどのように担うかが現実的な一番の課題でした。

そこで提案された新体制は、臨時措置として、事務局長業務を執行委員全員で代行（当番制）するというものです。同時にこれによって、執行委員の責務範囲が広がる為、WG 責任者＝執行委員という条件を取り払い、それによって WG 責任者への負担増を減らすことを念頭におきました。

今号では、これまでビジョン、集い、理事会等で討議されてきた案をまとめております。このビジョン案をもって来る臨時会員総会にて会員の皆様と討議し、**活動の継続の有無、継続する場合の新体制の決定**を行いたいと思います。資料は、事前にご覧いただきますようお願い申し上げます。

なお、当日は設立のきっかけとなりましたアフリカシンポジウムを報道したニュースのビデオ上映等もおこないます。この機会にぜひご覧下さい。また、関西方面で総会前に会員の集いを行う計画もございます。

多くの会員の方の出席をお待ちしております。

趣意書案

アフリカの政治的、経済的、社会的困難や環境破壊の危機の中で、地域自立に立ち上がる人々が自ら参加して、それらを解決するための取り組みが実施されること。そうした活動に対して、対等な協力関係が構築されること。

前項の目的達成のため、

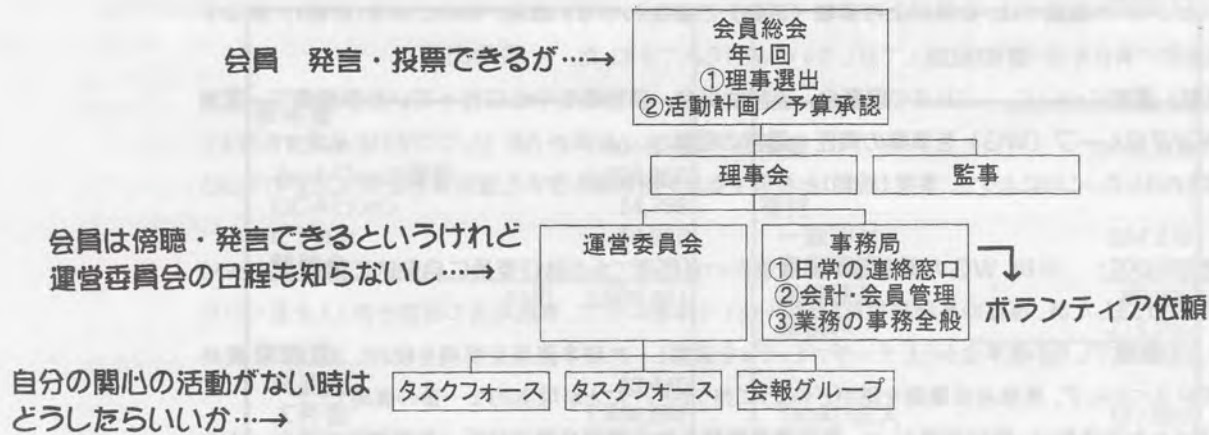
- (1) アフリカにおいて、地域自立に立ち上がる人々と私たちとの新しい協力関係（パートナーシップ）を構築する。
- (2) アフリカの地域自立に協力する人々やアフリカに関心のある人々を、国内外の NGO、公的機関、企業従来等の枠を越えて幅広くつなげ、それぞれの活動を強化する。
- (3) アフリカの人々の生活環境およびアフリカをとりまく国際環境の厳しさを理解し、それらの原因が世界中の人々の生活とも関わりがあるとの認識に基づき、私たちの生活のあり方を問いなおす。

<<これまでの議論のポイントに対する注釈>>

- 要因：主たる原因 / 「原因」の方が意味の幅が広い。>>「原因」を採用。
- あり方：どうあるべきか。あり様：そうならなければならない姿、実状、本当のこと。
>> 私たちが考えるべきは「どうあるべきか」ということで、「あり方」を採用。
- 地域自立という言葉が重なる：「従来」>> なんの事やらこれでは読む人にわからないという意見あり。
- ビジョン992回会合の『広く NGO、公的機関、企業とも協力し』といった具体的提案が抜けて落ちている。

ここが変わる！AJF組織図

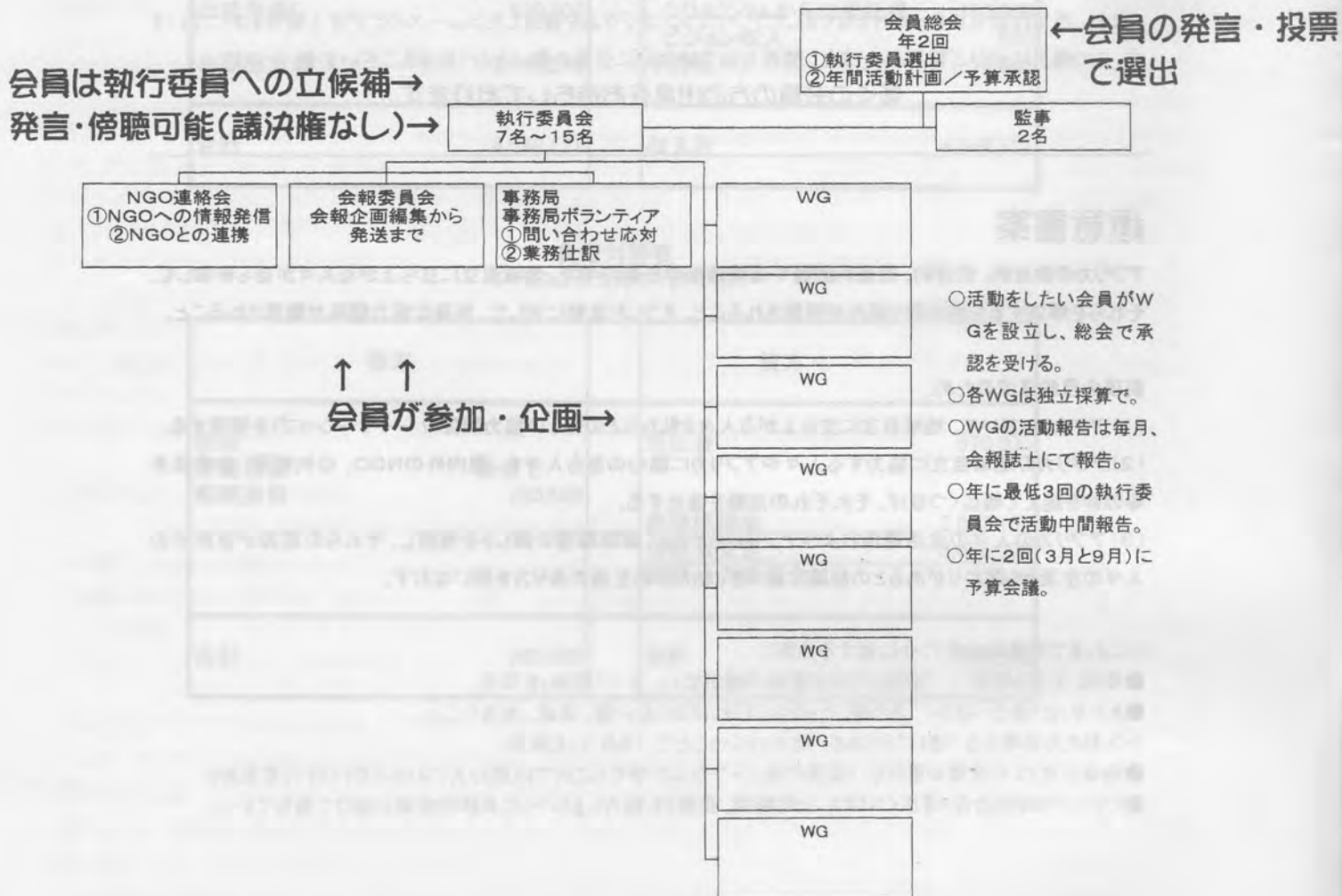
現在のAJF組織図



難点

- 総会に会員の意見が反映されにくい。(総会資料が手元に届くのが遅いことも原因の一つ)
- 理事会への会員からのアクセスがわかりにくい。
- 運営委員会の動きがわかりにくい。参加もしにくい(日程・報告)
- 東京中心の活動ばかりである。
- 関心のある活動以外には参加する機会がない。
- 活動の様子がわかりにくい。
- 会員は事務局・運営委員会からの依頼に対して答える「待ち」の姿勢になりがち

1999年度以降の組織図



ここが変わる！AJFの1999年度以降

	現行	1999年度以降
会員の構成	会員（個人）と賛助会員 （個人と団体）	同じ
組織運営上の責任者	理事、監事および理事会より 任命された運営委員会、	総会で選出された執行委員と 監事
活動の起案・運営者	運営委員と一部の会員	活動ごとに作られるワーキン ググループ（以下WG）
会員がAJFとして活動したい と思った時のプロセス	窓口・プロセスがわかりにく い	活動したい人が会員によびか けワーキンググループを作り、 企画書を執行委員会に提出、 総会で会員の承認を得る。 ①承認の場合は会員総会（3月 と9月の二回）。 ②年度途中は、WG責任者が 参加する執行委員会で承認・非承認。（WG責任者議 決権なし？） ③緊急の場合は持回り承認。
活動の進捗状況の把握	会報にのる記事（不定期） 一部の地域で行われるイベ ントへの参加	会報のWG報告頁にて毎月報 告。年最低3回の執行委員会 での報告。予算の中間みなお し会合の報告（会報）
役員等の選出のプロセス	①設置された選挙管理委員 会に締め切り日までに立 候補を届ける。 ②総会で、過半数以上の承認 をもって理事を選出。 ③理事会で運営委員を任命。 ④理事会で事務局員を任命。	①自分を除く5名以上の会員の 推薦を得る。（同一人物 が複数の候補者を推薦する ことは可能。ある一定の条件 をつけ、電子メールでの 推薦状送付も認めていく）。 ②設置された選挙管理委員会 に定められた立候補受け付け 締め切り日までに届け。 ③立候補者名簿は総会資料 に同封、会員へ伝わる。 ④総会で、過半数以上の承認 をもって執行委員を選出 ⑤欠員がある場合は、補選も 検討する。

	現行	1999年度以降
役員の責任	(理事)	(執行委員会) ①執行委員会の開催(年3回) ②WGのモニタリング ③年度途中の新規WGの承認・非承認。 ④事務局・会報委員会・NGO連絡会を管轄する。 ⑤事務局長業務の代行(月別当番制)
組織運営に関し発言したい時の窓口	運営委員会	執行委員会(執行委員会スケジュールを事前に発表)
事務局長	事務局長を配置(専従)	空きポストとする。 執行委員が当番制(毎月交代)で事務局長業務を担当。
会報の役割と担当	会報委員会が企画し、事務局が発送作業を行なう。	編集会議から発送業務まで会報委員会で担当。 各WGの月間活動報告を掲載。
日本のNGOとの連携	代表と事務局が担当。	NGO連絡会を執行委員会の管轄下に置き、ここが対応。

以上の改革案が承認された場合は、規約も一部改正する。

新しい組織運営: 執行委員会

会の組織運営責任は会員総会の場で選出された執行委員(会)が担う。

- <<任期>>執行委員の人数は7名から15名。任期は1年。
- <<業務>>執行委員会は年に最低3回は開かれ、組織運営上の問題、ワーキンググループ(WG)の活動のモニタリング、新規WGの承認等を討議する。執行委員会の下に設置する①事務局、②NGO連絡会、③会報委員会を監督する。
- <<事務局長代行業務>>99年度については、事務局長を空きポストとし、執行委員が連番制で事務局長業務を代行する。
- <<立候補の条件>>執行委員に立候補する会員(賛助会員は対象外)は、賛助会員と自分自身以外の会員5名の推薦状を付けて、役員改正の年に設置される選挙管理委員会に提出する。(推薦状は、推薦者の直筆サインを条件とするが、海外在住の場合は、電子メールでの立候補・推薦も受け付けられる様、方法を検討する。例:事務局に届けてある本人の電子メールアドレスから発信されたことの確認等)
- <<選出>>執行委員の選出は3月に開かれる会員総会でおこなわれる。欠員がある場合、補選を検討する。

*ただし、99年度の執行委員選出については、以下の手順でおこなう。

- ①ビジョン・理事会で執行委員と監事候補者を推薦、同時に会員に立候補をよびかける。
- ②3月27日の臨時会員総会場で選出。ただし、会員からの執行委員への立候補は3月末日まで受け付ける。
- ③6月開催予定の定例総会資料に追加立候補者の名簿を同封、会員に知らせる。
- ④6月定例総会場で選出。

●執行委員候補者：◎吉田昌夫、○高瀬国雄、○尾関葉子、望月克哉、永岡宏昌、壽賀一仁、
本田真智子、平山恵、(◎：代表候補、○副代表候補)。(99年2月25日現在)

●監事候補者：長門真理、大島康彦

<<それぞれの自己紹介文は今号に挟み込んであります。>>

新しい事業運営：ワーキンググループ(WG)

事業はワーキンググループ(WG)が担う。

<<企画>>AJFとしての事業を希望する会員は、企画書(目的、趣旨、事業内容、収支予算書、メンバーの名前、責任者の名前)を作成し、執行委員会に提出する。企画書は会員総会前に会員に配布され、会員総会場で選出される。

<<年度途中の提出について>>年度途中の提出で、会員総会に間に合わない場合は、執行委員会が代行して承認・非承認をおこなう。

<<事業内容>> AJFの活動目的・趣旨に沿ったものであること。

<<事業予算>>予算は各WGの独立採算でおこなう。利益が生じた際は、AJF管理費にまわす。ただし、WGの活動が年度をまたがって行われることが承認されている場合、回転資金としてWGが一定の額を保持することは認められる。(額については、各WGで検討する)。

以下の3機能は執行委員会の下に設置し、必要経費はAJF管理費から予算配分を行う。

- ①事務局
- ②NGO連絡会
- ③会報委員会

<<事務局>>

●ボランティアによる対応：

事務局には、事務局ボランティア1名が週2日、午後2時～7時の5時間勤務し、事務局に不在の曜日は電話・FAXともボランティアの携帯電話または自宅へ転送し、ボランティアが同様に対応する。また、現金出納も担当する。

●ボランティアと執行委員の連携で事務処理を行う：

事務局ボランティアは事務局に届く情報を①読み物と②返事が必要なもの(依頼・質問・招待等)に仕分けし、指示を当番執行委員にあおぐ。

●執行委員による月代わりの当番制事務局長代行業務

執行委員は月代わりの当番制で事務局長代行業務を担当する。当番には必ず一人か二人の副当番をおき、臨機に対応する。執行委員会と事務局ボランティア間の連絡は電子メールによる執行委員メーリングリストを使用し、当番以外の執行委員にも事務局代行業務の連絡ができるようにする。緊急の場合は、代表・副代表に決済をあおぐ

●事務局ボランティア候補者：渡瀬のり子

＜＜NGO連絡会(仮称)＞＞

「NGO協議体」という構想は、AJF設立の結節点の一つでもありました。ビジョンの議論の中でもNGOの強化にAJFがどれだけ役に立つ活動を行えるか、そうした活動を誰が担うか等といった議論がなされてきました。今回のビジョン最終案でも「NGO強化に対しAJFに何ができるか」については十分に議論されてきていません。しかし、体制の変わる中であっても現在行われている活動範囲は小さくないという合意がありました。

そこで、新体制ではNGO連絡会(仮称)を事務局、会報と同様に執行委員会の元に置き、AJF全体の活動のひとつとして位置づけたいと考えています。メンバーはまだ少しですが、関心のある方、ぜひご連絡下さい。(連絡は事務局気付け尾関まで)

具体的な活動内容は以下の通りです。

●メンバー：尾関葉子(前半責任者)、高瀬国雄他募集中！

(ワープロ入力の仕事、NGOニュースレターのイベントチェックなど、気軽に参加できる内容もあります。ぜひご参加下さい！)

●目的：

- ①AJFが入手しているODAとNGOの連携や、全国的なNGOネットワークの動き等に関する国内情報がNGOに行き渡るようにする。
- ②NGOとの情報交換をもとに、各NGOから出される意見をODAとの話し合いに反映させる。

●活動：

- ①NGOとの会合開催や情報の発信(A4版1枚程度。会報への挟み込みは二ヶ月に一度を想定)
- ②ODAとの話し合いの場(以下参照)への参加等。
- ③JANICへ正会員として加盟し、アフリカ支援NGOの情報、NGOの動き等の情報を得ていく。

具体的な動き：

NGO・外務省定期協議会

昨年より外務省経済協力局とNGO(JANIC、関西NGO協議会、名古屋NGOセンターが中心。それぞれのメンバーの数団体が出席)の間で行われている定期協議。より具体的なNGOとODAとの連携やODAの改善などが議題に挙げられてきており、NGO事業補助金のメニュー改善など、成果もあげている。話される内容は、NGO関連事業の予算(要求)、NGO支援策、NGO事業補助金などへの提案など。毎回双方からいろいろな報告、提案がなされる。

11月よりアフリカ日本協議会がJANICのオブザーバーメンバーとして尾関葉子が出席。

ODA改革懇談会提言フォローアップ小委員会

上記のNGO・外務省定期協議の小委員会として2月に発足。「21世紀に向けてのODA改革懇談会」がまとめた提言内容の実現に向け、状況や課題などについての話し合い、外務省とNGO側が協力できる点等の協議を目的としている。外務省とNGOの間で2ヶ月に1度開かれる予定。外務省側の参加部署は、経済協力局政策課、技術協力課、無償資金協力課、民間援助室等。NGO側参加者は、NGO活動推進センター(JANIC)伊藤

道雄事務局長、日本国際ボランティアセンター(JVC)谷山博史事務局長、シャプラニール長畑誠海外プロジェクト担当、地域自立発展研究所(IACOD)神田浩史事務局長、アジア太平洋資料センター(PARC)越田清和事務局長。AJFからは尾関葉子事務局長が参加している。

ネットワークNGO全国会議

昨年11月にJANICの呼びかけで始まったネットワークNGOの全国会議の動き。ネットワーク団体15団体の事務局長、議長など役職名称の違いはあるが、事務局を担う責任者が集合している。東京以外に拠点を置く地域のNGOを結ぶ地域ネットワークが中心で、対象地域別・テーマ別ネットワークは、カンボジア市民フォーラム、ネパールNGO連絡会、日本緊急救援NGOグループ、開発教育協議会とAJFの5団体。AJFからは事務局長尾関葉子が参加。

議題は、「情報交換と協力体制」、「組織及び財政基盤の強化」、「全国レベルでの地球市民ウィークの創設」、「特定非営利活動促進法とNGO活動のための優遇措置の確保」、「国会議員とNGOの対話フォーラム」、「第4回全国NGOの集い」など。今後の具体的な動きに繋がるか注目されている。

『Monthly アフリカ NOW』編集委員 大募集！

ご存知のとおり、アフリカ日本協議会(AJF)では会報「Monthly アフリカ NOW」を毎月発行しています。99年4月からの組織改編以降も、同様に発行していきたいと思っております。

会報の編集・作成・発送においては、多くの作業が必要となります。一人でも多くの会員の皆様と一緒に作る会報でありたいと思っております。既に35号で提案している編集の基本方針に加え、99年度は以下のように考えています。「これなら自分にもできる」と思えることがあるのでは？

皆様の積極的な参加をお待ちしています！

(文責：会報委員会)

●基本方針●

『楽しいアフリカと大変なアフリカの両面を伝える。』

●何を伝えるの？●

○アフリカの最新情報○

マスコミからはなかなか聞こえてこないアフリカの現状をお伝えします。AJFの視点でアフリカのニュースを国ごと、テーマごとに取り上げます。

○AJFの活動報告(WGのページ)○

99年度のAJFでは、ワーキンググループ(WG)ベースで、アフリカNGOの調査、アフリカNGO出版物の翻訳、スタディツアー、会員の定期的な集い等の活動を担います。各WGの活動報告や提案をお伝えします。

○AJF会員の活動報告(NGOのページ、地方のページ)○

国内外で活動するAJF会員の取り組みを紹介します。NGOの活動内容やプロジェクトの紹介、各地域の勉強会やイベントの報告などをお伝えします。

○会員フォーラム○

会員同士の意見交換の場です。ちょっと知りたい情報の募集、耳寄り情報のおしらせ、体験記など、会員からの投稿で作ります。

○アフリカニュース○

現在挟み込みでお知らせしているアフリカ各国の毎月のニュースを引き続きお伝えします。

○イベントガイド○

各地域で行われるアフリカ関連のイベント情報をお伝えします。

○AJFカレンダー○

各WGのミーティングや活動日、会員の集い、事務局作業日、執行委員会、会報作成スケジュール等の予定をまとめてお伝えします。

●どうやって作るの？●

○編集会議○

3号分ぐらいの企画をまとめて話し合う編集会議を、会報委員会中心に行います。飛び入り参加も大歓迎です。AJFの年間活動計画、国内・海外のアフリカイベント等の動きを踏まえながら、どんな特集を組むかなどのアイデアを出し合い、決定します。最終的には、各号の発行前に調整していきます。

○原稿依頼&納品○

依頼はAJF会報委員会から行いますが、執筆の進捗状況や締切の確認、頂いた原稿の編集など細かな連絡は各委員が担当制で行います。最終的な原稿のチェックは編集長をはじめ複数の委員で行います。

○版下作成○

揃った原稿のレイアウトをし、写真やイラスト等を貼りつけて、印刷用原稿(紙版下)を作成します。コンピュータ上での作業のみならず、手作業が必要になってきます。事務局で作業を行います。

○印刷依頼&納品○

完成した版下を印刷業者に納入します。刷り上がった会報本体は、事務局に届けられます。

○挟み込み原稿印刷○

会報本体への挟み込みは、本体が納品される日までに事務局で印刷します。

○会報発送○

会報本体に挟み込みを行い、その他のおしらせ(会費振り込み用紙など)をセットにして、国内・海外に発送します。全会員と寄贈先・機誌交換先の宛名シールを封筒に貼り、会報他を封筒サイズに折り、封筒に入れて封をし、ポストまで持って行く...ひとつひとつは誰にでもできる単純作業ですが、人がいなくてはできない仕事です。多くの皆様のご参加をお待ちしています。99年度は、毎月第3土曜日など発送日を固定して、作業したいと考えています(具体的にいつにするかは未定です)。

●誰が作るの？●

○AJF会員のあなたです！○

会報委員会はどなたでも参加できます。直接事務局(東上野)に来られなくても、電子メールなどを利用して参加することが可能です。

99年度会報委員会立候補者(99年2月20日現在):

奥田麻緒、尾関葉子、佐藤由規、名畑剛、
本田真智子、宮嶋真



メールマガジンを作ろう！



(情報発信ワーキング・グループメンバー募集)

メールマガジンって知っていますか？ そう、e-mail による e-mail のための雑誌です。A J Fでは、今まで発行して来た会報よりもっと、フランクでホットな情報をリアルタイムでお届けします。作るのは誰？それはあ・な・た！ 遠くにいても近くにいても e-mail にアクセスできれば参加できます。

その1 コンセプト

「アフリカとつながる、アフリカを知る。」

③最終レイアウト

④送信 完了！

その2 コンテンツ

- ✂ アフリカ・開発関連イベント情報
- ✂ A J Fカレンダー
- ✂ ボランティア募集情報
- ✂ 最新『Monthly アフリカ NOW』内容紹介
- ✂ アフリカ在住の方からの生情報
- ✂ 地方発アフリカ便り などなど…

その4 現在のメンバー紹介

奥田 麻緒&楠田 一千代&斎藤 龍一郎

新規受付&問い合わせ連絡先：

奥田 麻緒

その3 発行までの作業

- ①情報収集（事務所、会員などから）
- ②入力作業

マガジン名募集中！

素敵な名前をつけて下さい。採用された方にはアフリカ・グッズを差し上げます。

資料を活かしたい！ 資料活用WGへのお誘い

働く場を求めたかのように、A J Fの事務所にはアフリカに関わる本、報告書、ニューズレターそしてビデオが集まってきていました。現在の事務所へ移る際に展示スペースがなくなって、その多くは協力者の下で出番を待っています。

これらの本・報告書・ニューズレター・ビデオそして交流のあるNGOのリストをA J Fのホームページ (<http://www.zzz.or.jp/~kazutiyo/AJF.htm>) に掲載しました。現物を利用するためにはまだまだクリアしなければならない課題（管理・実際の受け渡し・利用に伴う使用料などなど）がありますので、A J F所蔵の資料をいまずぐに活用することはできませんが、リストを基に関係する資料を探したり、連絡を取るべきNGOをチェックしたりすることはできます。

また、アフリカ各地で活動する会員・協力者の力を得て、紹介されること自体がまれな本や資料をリストに載せ、紹介文をつけていく（目次紹介なんかグーですね）こともこれからの課題です。

リスト作成のための情報を寄せてくれる仲間（手元にある本・パンフなどの情報もよろしく）、紹介文を書いてくれる仲間、そしてそれをHTMLにしてホームページで見えるようにしてくれる仲間（ついでに自分のホームページ領域を提供してくれればもっといい！！）を資料活用WGは求めています。

参加希望は、

AJF事務局（PXC06143@nifty.ne.jp）もしくはWG責任者：斎藤龍一郎 まで。

ワーキンググループ

『交流の場づくり』企画への参加募集

アフリカに関わると言っても、

やっぱり、たくさんのアフリカ好きの人と知り合い、顔の見える付き合いをしないと、
具体的イメージは沸いて来ないし、なんと言っても楽しくない！！

そこで、ワーキンググループ『交流の場づくり』を企画しました。

この企画に賛同してくださる方、そして『交流の場づくりの企画』を一緒にして下さる方を大募集いたします。

(目的)

月1回～2回、定期的に同じ場所で交流会や勉強会などを開き、

300人以上いる会員またはアフリカ好きの人々が気軽に集り・知り合う場をつくり、
情報交換やアフリカに触れる機会を増やして行く。

(具体的な案として)

場所 : 場所提供を申し出てくれた渋谷のアフリカ料理屋を、土・日の日中に借りる。
協議会の事務局や公共の施設などを借上げる。

内容 : 交流会、アフリカ文化を楽しむ会、
報告会、勉強会、NGOなど活動紹介等の定期会合。
見学ツアー、体験ツアー、連続講座などの合宿。その他。
会合では、参加者同士が交流できるように工夫する。

参加対象 : A J F 会員・在日アフリカ人・アフリカに関わる人・または興味のある人。

費用 : その都度、資料代、ドリンク代、場所代などを参加者から集める。

A J F 会員には、会員価格を設定。

案内方法 : 会報にスケジュールを載せる。

F A X 通信や A J F のホームページなどに載せる。

などが上がっています。

企画メンバーは現在6人いますが、まだまだ足りません。東京以外の方でも可能です。

ほら、そのアフリカ好きのあなた！！

あなたの積極的な参加と斬新なアイデアをお待ちしています。

詳しくは、ワーキンググループ『交流の場づくり』責任者 渡瀬のり子 まで…。

スタディツアー W グループ協力者募集

自分の出来ることから始めよう！！！！

最近 NGO のツアーも単なるレジャーと化してきている中、真にアフリカの人々の取り組みを学べるツアーを作っていきましょう！私たちスタディツアー WG は AJF のネットワークをいかし、夏・冬・春の長期休暇を使って年計 3 回のツアー実施を目標とします！！

夏はケニアを予定：

ケニアに 3 年在住されていた三好さんを中心メンバーに、準備を進めて行く予定です。色々な日本の NGO との協力を中心に、ツアーを企画していきましょう！

冬はジンバブエを予定：

尾関さんのジンバブエ在住期間に、PELUM Ass. 等の NGO の協力を得て実施しましょう！年末年始に企画し、ついでに 2000 年のカウントダウンもアフリカで！！

春はセネガルを予定：

内容あるツアーが、AJF と関係の深い ENDA-GRAF の協力の元、すでに今年度実験的に進行中です。下にその模様が詳しく書かれていますのでご覧ください。

スタディツアー企画は実際の渡航だけではありません。渡航前の準備や勉強会、渡航後の活動が伴い、初めて意味を持ちます。そして渡航しなくても、様々な部分に関われるのです。3つのツアーすべてに関わる必要はなく、関心のあるものに関わって下さい！！

広報（インターネットで人に呼びかけたり、ちらしを大学や施設にはってくださる方）

参加者対応（異なった感性をもった参加者 1 人 1 人の問題意識に向き合ってくれる方）

事前勉強会作り（各勉強会の立案、講師の選定や会場の確保などをすすめてくれる方）

参加者管理（エクセルなどを巧みに使いこなして簡単なデータベースを作ってくれる方）

航空チケット手配（良いチケットを低価格で手配してくれる方）

財務管理（収入・支出を管理し、なおかつ適切な収益をみこんだ会計を担ってくれる方）

現地との調整（英語や仏語その他の言語でカウンターパートと調整を計ってくれる方）

ツアープログラム立案（内容のあるツアーと一緒に立案してくださる方）

その他たくさんの知恵を待っています。

飲み会要員も待っています…◎

99 年 2～3 月に企画進行中の「セネガル草の根スタディツアー」の紹介

今年度 99 年 2 月 24 日から 3 月 13 日にかけて会員の有志が実験的にセネガルにスタディツアーを企画中であるので、一例として、その内容を簡単に紹介させていただきます。

実施期間：2 月 24 日から 3 月 13 日の 18 日間（短期コースもあり）

参加費：¥24,3000（モスクワ経由）と ¥29,8000（パリ経由）の 2 コースを用意

カウンターパート：ENDA-GRAF（MAMADOU NDIAYE 氏）

プログラム内容：ENDA-GRAF の協力の元、農民 20 人との合同ワークショップ・青年海外協力隊宅でホームステイ・各 NGO 訪問・日本の ODA プロジェクト訪問など

参加者：学生・NGO/ODA 関係者など 16 名（うち新会員 11 名！）

事前学習会：参加者内勉強会 4 回・公開講座計 2 回（講師：勝俣誠氏・尾関葉子氏）・合宿（在日セネガル人との交流・参加者自主テーマ発表など）1 回実施

アフリカNGO

アフリカNGOに関する4事業です。これまでのAJFは1993年のアフリカシンポジウムに来日した8ヶ国の団体の活動地を訪問することをひとつの区切りとして、それぞれの国の状況、NGO活動の様子を知ること、また、毎年違ったテーマでアフリカNGOスタッフを日本に招聘し、広くアフリカNGOの活動に理解を持ってもらう為の国内ツアー、シンポジウムなどを活動の中心としてきました。

一昨年以來行っているネットワーク調査を受け、今後どういう形の協力をAJFができるか？その具体的な方向を決めていく事業を展開していきたいと考えています。ネットワーク調査と合わせて検討下さい。

1) NGOのスクリーニング (AJFの視点から見た、AJFがつながっていききたいNGOの選定)

●メンバー：壽賀一仁（責任者）、松谷曜子、大芝博明、尾関葉子

●タイムスケジュール：1999.4月～12月

●目的：

AJFが考える「地域自立にたちあがる人々」とはどういう人・団体なのか、今後AJFはどういう人・団体とつながっていききたいのかを明確にする。

●補足：

カテゴリー分けや、基準作りという形から入るのではなく、このワーキンググループに参加する人が実際に（既に）知っていて「つながりたい」と考えている実存のNGOをワーキンググループの中でそれぞれ説明していく中で、明確にしていく。リストにはいるNGOは、ワーキンググループ参加者が実際に知っている団体からしかあがってこない、という点から、地域・分野のアンバランスはやむを得ないとする。通常全ての分野、地域をカバーするダイレクトリーというものではない。

●方法：

電子メールで会員に呼びかけ、関心のある人でつくったW/Gで自分が「いい・つながりたい」と思っているどこそこのCBOやNGOの名前を具体的に挙げてもらう。なぜ、そこがいいと思うのか、シェアしあう。最初に基準を設けたりしない。一つひとつをクリアーにする中で、「？」と言われたところは、各自がフォローして回答する。昔はよくて、今はダメと言われている団体も考慮する。カテゴリーにはアドボカシーも含む。NGOだけでなく、住民組織も含む。

●アウトプット：

AJFの視点とリスト。「AJFの視点から見てなぜそのNGOが良いのか。なぜAJFはそのNGOとつながりたいのか。」1)の事業が完了した時点で、2)へと連携する。

2) アフリカNGOとの連携拡大（ジンバブエ他）

●メンバー：尾関葉子（責任者）、壽賀一仁、松谷曜子、大芝博明

●具体的内容：

ジンバブエにおけるネットワーク調査のフォロー（PELUM Association）および、AJFの目指す「新しい協力関係の構築」とはどういうことか、明らかにしていきながら、次をつくる下準備とする。

●活動内容：1999年度はジンバブエのPELUMを対象。年間\$500で賛助会員になり、こちらの先方の活動へのコミットメントをまず明確にする。それによって得られる活動状況の報告や会報などをきちんと読んで会報に流す。昨年のトレーニングの成果などもフォローしていく。（長期的には、西アフリカも視野に入れている）

●アウトプット: 会報誌上での活動報告

●全体のスケジュール:

1999.6~2001.3 →中間報告 2000.6 →最終報告 2001.3

●1999年度のスケジュール:

1999年6月からニューズレターを購読し、情報が来る度に会報で報告。



3) アフリカ側からのアドボカシー

●メンバー:

尾関葉子(責任者)、壽賀一仁、松谷曜子、大芝博明

●具体的内容:

アフリカNGOのアドボカシーを会報で日本に伝える

(農村など現場との、接点や視点をもったアドボカシー活動の記事を探して日本語に訳して定期的に会報で伝える。会議の提言書よりも、NGOの会報などを念頭におき、あわせてHPでもさがしてみる。東京の事務所にも同じ会報が届くようにしておき、日本側でもW/Gメンバー参加者を募る。日本、アフリカ以外にいる会員絵も、HPの担当を検討するなど、参加の可能をつくる。

●タイムスケジュール: 1999.4~2001.3

●1999年度スケジュール

1999年4月より発行される会報に隔月で記事を掲載。年度内6回の掲載を目標。

4) 草の根無償資金協力情報の提供

●メンバー: 尾関葉子(責任者)、松谷曜子、大芝博明、壽賀一仁

●具体的内容:

草の根無償資金協力の内容がアフリカに伝わる仕組みづくり。大使館とアフリカNGOとの定期的な会合、ドナー会議など、形式は未定。情報へのアクセスをつくることが目的。他地域(草の根無償資金協力担当者と現地NGOの連携があるインドなど)の情報を流すことも視野に入れる。大使館だけでなく外務省本省をまきこむ必要も出てくるかもしれない。担当者(大使館、AJFともに)が変わっても続く形をつくる。(機会はオープンにすべきだが、AJFとしては、どこの活動、どんな活動に注目しているのかという「AJFの視点」ができあがってから着手すべき。よって1)のリストができから始める)。

●タイムスケジュール: 2000.1~2001.3

●1999年度のスケジュール: 担当者のジンバブエ着任までは、日本国内で情報収集をおこなう。

アフリカNGOの活動に関心のある人、ぜひご連絡下さい。

アフリカに行ったことのない人でも大歓迎。2) 連携拡大、3) アドボカシーや、4) 草の根無償は、翻訳や情報をまとめる作業等、自宅でもできる作業が沢山あります。

1) のNGOスクリーニングは電子メールリスト使用を検討しています。特に海外の方! ご参加お待ちしております。今まで口ムの方も大歓迎です。ぜひぜひご連絡を。

このWGに関しての連絡先は:

03-3834-6903 (FAX)、03-3834-6902 (電話) どちらも事務局気付けて。

ネットワーク調査

ネットワーク（トレーニング）に関する調査の報告書作り事業です。アフリカNGOの活動に関心のある人、ぜひご参加ください！

「ネットワーク」とか、「トレーニング」という言葉がこのところ多く聞かれます。でもちょっと待って。ネットワークって何？トレーニングって何の為のトレーニング？AJFが1997年に3ヶ国（セネガル、ジンバブエ、チャド）に会員を送り、どんなトレーニングが行われているのか、どんなことが必要な要素なのか、といった聞き取りをしてきました。それは、今後AJFがどういう形でアフリカNGOと活動をしてゆくかという方向性を探る調査でもありました。

●単なるまとめの報告書ではなく

帰国後、報告書をだそう！という時に、セネガルにでかけたメンバーがカウンターパートであるEnda-grafのママドゥ・ンジャイ氏の言葉を伝えてきました。ママドゥ氏は1996年に「食と環境」のシンポジウムで来日しましたので、ご記憶の方も多いかと思いますが、彼が指摘したことは、北のNGOは何度も調査に来て、すべての情報を南から持ち出してきたということ。北のNGOの事務所に保管された情報に、南のNGOはアクセスする術もないという現状。そしてAJFは今回3ヶ国で調査をしましたが、それぞれの国のカウンターパートに調査結果が共有されることがないまま報告書が作られるのではなく、日本を含めた4ヶ国で情報を交換し、トレーニングとは何か、農村に住む人々の力になるトレーニングがあるとすればそれは何か。その必要な要素とは何か、をテーマに一緒に報告書を作ろうということになりました。

ご存じのように、この報告書作りは1998年度の活動としていましたが、全員が他の仕事を抱えながらの報告書作りという状況から、スケジュールに間に合わず、今回は今年度の絶対目標であった第一段階の「日本語のまとめとしての報告書作り」を達成しています。今後は、スケジュールを見直しして、99年度も継続していきたいと思っています。

●活動の目的：

現地調査を、単なる北の南に関する情報収集に終わらせるのではなく、その成果をまずアフリカの97年度トレーニング調査に参加したアフリカのパートナーたちの間で共有し、それを土台に研修活動分野の調査、分析を一步すすめることを目的とする。

また、トレーニング調査フォロー活動は初めての試みであるので、この「試み」が可能か、また、それを通じてAJFが南-南ネットワーク構築のサポートをできるかどうかの試金石ともする。

アフリカ側の参加は、ACODE（チャド）、Enda-graf（セネガル）、PELUM Association（ジンバブエ）。

●活動とスケジュール：

4月～7月：1999年3月末日に印刷した各トレーニングのまとめ（日本語）をそれぞれ仏語・英語訳をおこなう。

7月～12月：翻訳したものを3団体へ送り、日本を含めた4ヶ国で意見交換する。

2月：最終報告書（英文・仏文）印刷・発送（100部）

3月：余裕がある場合は、最終報告書の邦文を作成・印刷・発送する。

◎上記翻訳スケジュールと平行して、訪問先の3 NGOの活動を把握するため、出張メンバーの報告・説明を中心に翻訳チームのメンバーで勉強会等も行う。

●メンバー：尾関葉子（全体の責任者およびZimbabwe担当）、楠田一千代（senegal担当）坂井真紀子（Chad担当）を中心に翻訳ボランティアチームを結成中です。皆様の参加をお待ちしています。

アフリカのパートナーNGOの出版物翻訳ワーキング・グループ

●目的：過去の AJF 調査などで協働した NGO の出版物を日本語で発表することによって、アフリカの現場で起こっている変化、努力をより広くの人（研究者、学生を始め一般の人にむけて）に伝えることを目的とする。

また、アフリカの人の声を聞いてもらうという AJF 原点の活動を現金収入に直接結び付ける。

●特徴： チームメンバーは広く AJF 会員以外からも、を基本とする。理由：出版物の内容自身が開発やアフリカ研究に関わる人々にぜひとも読んで欲しいものなので、翻訳の時点からそのような人を巻き込んでいく。ひいては出版の折に購入者となる可能性大、と考える。また、これを機会に会員になってもらい、将来本WGの中心となってくれるように努力する。

●メンバー候補者：AJF 会員＝壽賀一仁、斉藤龍一郎、楠田一千代ほか。必要であれば英語もしくはフランス語が相当レベルできる人を募集する。／non-AJF＝国連職員、青年海外協力隊経験者をはじめとする AJF 非会員（数人には「軽く」打診済み）。

全体で 10 名程度のチームを予定し、AJF 会員が過半数を超えるように努力する。このほかに出版社との橋渡しということで AJF 会員の研究者などに協力を仰ぎ、翻訳出版に関しての助言などをお願いする。

●翻訳するNGOの出版物：

1999～2000 年は Enda-graf(本部：ダカール)のものを中心に行う。

1999 年／“La ressource humaine, avenir des terroirs – recherches paysannes au Senegal” (ENDA-graf, 1992 年発行 原文フランス語、英語訳本あり：本文 301 頁、うち図表 35 頁分)

2000 年／(1)VTR “Si on ecoutait la terre?” (ENDA-graf, フランス語：26 分)

(2) “L’economie urbaine en Afrique – le don et le recours” (ENDA-graf, 1992 年発行フランス語：本文 201 頁)

●活動の特徴：

初年度は、翻訳を進めるのと平行に出版までの道筋も勉強する。出版社とのコンタクトを作る。

●戦略：

翻訳、訳文の出来上がりチェック、出版社の開拓、チラシ作成（出版社との絡みで必要なら用意）、販売ルート開拓、などの

諸作業に翻訳兼任で担当をつけ、同時進行で行なう。

自費出版の形は取らずに、AJF 会員の研究者などの協力も得て、できるだけ一般流通に乗る出版社を探し、出版実現の為に尽力する。

想定読者は、アフリカをはじめとする途上国に関わる研究者、開発協力を学ぶ学生や大学院生、ODA コンサルタント、JICA ほか ODA 関係諸機関職員、専門家、OB/OG を含めた青年海外協力隊隊員、日本の NGO 関係者、全国の公立図書館など。

インパクトのある書評を載せてもらうための準備（評者の選定、掲載誌の絞り込み）もしっかりし、チラシ（各地の国際交流センターなどにおいてもらう）、電子メディアほかによる広報と運動させる。

●作業日程：

1999 年 4 月	著作権のことなどを交渉開始・確認 翻訳メンバーを決定し、翻訳頁を割り振る（各人 30 頁程度）。 出資者募集用チラシ作成。出資者募集開始。 出版可能性のある会社とのコンタクト開始。
1999 年 5 月～	メールまたはホームページ（非公開のメンバーだけに知らせたアドレス(URL)で議論展開。掲示板設置。）で出版に関する諸事項を継続的に勉強する。翻訳の進行状況の報告や訳語の統一などについての意見交換。 （電子メールにアクセスのない人はファックス等で。
1999 年 6 月末	第 1 回翻訳締め切り。可能性のある出版社の絞り込み（数社程度に）。
1999 年 7 月	量にもよるがすべての訳をまとめて、メンバー限定 HP にアップロード。翻訳メンバー全員が通読、校正を担当（自分の翻訳部分以外）。
1999 年 9 月	第 1 ドラフトの完成。
1999 年 10 月	出版社編集側との詰め？
1999 年 12 月	出版社との契約完了
2000 年初め	出版、販売開始（広報宣伝は継続）

99年度予算

<<収支予算案>>

管理費

(1999年4月1日～2000年3月31日)

単位(円)

支出の部		収入の部	
管理費		会費収入*1	2,270,000
交通費*1	120,000	寄付収入	
人件費*2	900,000	指定寄付*2	600,000
出版・印刷*3	59,220	指定寄付*3	420,000
消耗品費	80,000	事業部寄付*4	100,000
家賃・光熱費*4	600,000	講師派遣/原稿料	50,000
雑費*5	300,000	小計	1,170,000
通信費	340,000		
小計	2,399,220		
会報委員会事業費*6			
その他印刷代	60,000		
本体印刷代	420,000		
通信費	430,000		
小計	910,000		
NGO連絡会事業費			
印刷費	780		
通信費	12,000		
会報挟み込み超過料金分	18,000		
JANIC正会員費	30,000		
小計	60,780		
出版翻訳WGへの出資金	10,000	広報収入*5	50,000
次期繰越金	110,000		
合計	3,490,000	合計	3,490,000

*1交通費: 5千x12ヶ月分+α

*2人件費: (5万+2万)x12ヶ月分+5千x12ヶ月分

*3出版費: 新パンフ料含む

*4家賃: (4万+1万)x12ヶ月分

*5雑費: コピー代2万x12ヶ月分

*6会報事業費明細

・1号あたりの必要経費:

本体印刷代 16P 500部で35000円x12ヶ月

その他印刷代

写真紙焼き代: 1枚平均 450～500円x12ヶ月

挟み込み印刷代: (印刷枚数: 200枚×B4両面2枚印刷)

製版 100円×4枚=400円

印刷 0.5円×4枚×262人=524円

紙代 1枚1.6円(B4サイズ)×2枚×262人=839円

合計: 約5千円x12ヶ月

・1年間あたりの郵送料:

年12回発行(10ヶ月分: 50g以内 2ヶ月分: 50g以上)

<<普通料金>>

262人×90円×10ヶ月=235,800円

262人×140円×2ヶ月=73,360円

25人×170円×10ヶ月=42,500円

25人×290円×10ヶ月=72,500円

合計: 424,160円

*1会費: 262名(1/1付)の1割減236名中 8割x1万

2割x6千

*2指定寄付: 60万は人件費に

*3指定寄付: (株)プリンティングサービスのご好意により

印刷費用を無料にいただいている

*4事業部: 物品販売対象

*5広報収入: 会報、資料売り上げ

<<第三種>>

262人×60円×10ヶ月=157,200円

262人×68円×2ヶ月=35,632円

25人×170円×10ヶ月=42,500円

25人×290円×10ヶ月=72,500円

初期登録申請料: 100,000円

合計: 407,832円

備考: 第三種取得の場合、送付元郵便局が固定されるため、発送作業を事務局で行わない場合は、別途国内送付料(約1,000円)が必要となる。

<<各WGの予算>>

(1)情報発信

* 電子メール送信に関わる通信費は個人負担。入力作業など労働力はボランティアで賄う。

(2)資料大活用プロジェクト

* 第1段階: なし、第2段階: 利用方法とあわせて検討

(3)交流の場作り(1年間)

単位(¥)

支出の部		収入の部	
広報(イベント案内使用)	0	参加費: 会員(500円×30人2回×12ヶ月)	360,000
会場費(3千円×12ヶ月)	36,000	参加費: 非会員(700円×30人2回×13ヶ月)	84,000
ドリンク代(千円×2回×12ヶ月)	24,000		
講師代(1万円×12ヶ月)	120,000		
月)	11,280		
役員の実費			
交通費1500円×5人×2回×12ヶ月)	180,000		
通信費500円×5人×2回×12ヶ月)	60,000		
次期繰り越し	12,720		
合計	444,000	合計	444,000

(4)スタディツアー

1999年8月-9月ケニアスタディツアー(10日間)

単位(¥)

支出の部		収入の部	
渡航費(10人)	1,600,000	参加費(10人で想定)	3,500,000
事前準備人件費	200,000		
滞在費	1,000,000		
引率者諸経費	250,000		
事前勉強会	20,000		
通信費(国内外)	50,000		
広告費	40,000		
事後活動費	40,000		
AJF寄付分	200,000		
小計	3,400,000	小計	3,500,000
次期スタディツアー繰越金	100,000		
合計	3,500,000	合計	3,500,000

1999年12月-2000年1月ジンバブエスタディツアー(10日間)

単位(¥)

支出の部		収入の部	
渡航費(10人)	2,500,000	参加費(10人で想定)	4,450,000
事前準備人件費	200,000		
滞在費	1,000,000		
引率者諸経費	300,000		
事前勉強会	20,000		
通信費(国内外)	50,000		
広告費	40,000		
事後活動費	40,000		
AJF寄付分	200,000		
小計	4,350,000	小計	4,450,000
次期スタディツアー繰越金	100,000		
合計	4,450,000	合計	4,450,000

2000年2月-3月セネガル草の根スタディツアー(21日間)

単位(¥)

支出の部		収入の部	
渡航費(15人分) * 1	1,920,000	参加費モスクワ経由(12人)	2,808,000
事前準備人件費	200,000	参加費パリ経由(3人)	894,000
滞在費 * 2	858,000	参加費 現地参加(1人)	108,000
引率者諸経費 * 3	250,000		
事前勉強会 * 4	27,000		
通信費(国内外)	60,000		
広告費	20,000		
事後活動費 * 5	56,000		
AJF寄付分	369,000		
小計	3,760,000	小計	3,810,000
次期スタディツアー繰越金	150,000		
合計	3,810,000	合計	3,810,000

* 1 渡航費はモスクワ経由(約11.5万円×12人)とパリ経由(約17.5万円×3人)の値段を含む

- * 2 飲食費・宿泊費・交通費・現地NGO謝礼・他雑費の値段を含む
- * 3 引率者の飲食費・宿泊費・交通費・渡航費・保険費・他雑費の値段を含む
- * 4 講師費・資料印刷諸経費・会場費の値段を含む
- * 5 報告書作成などを想定している
- * 6 1999年2月～3月セネガルスタディツアーをもとに算出

(5) アフリカNGO(1年間)

1) NGOのスクリーニング

- * 通信費、現地国内での交通費などのみでそれぞれ自己負担。

2) アフリカNGOとの連携拡大

単位(¥)

支出の部		収入の部	
PELUM賛助会費 (ただし、今後5万x3年)	50,000		
尾関渡航費他	500,000		
合計	550,000	合計	0

* 尾関渡航費に関しては外務省事業補助金の新メニューの発表内容をみってから検討する。

他の団体の研究助成などのスキームも検討する。取得不可の場合は全額自己負担。

- * PELUM賛助会費については検討中(2000年度は上記のスキームが可能な場合、そこから捻出する。)

3) アフリカ側からのアドボカシー

単位(¥)

支出の部		収入の部	
ニュースレター購読料(7500円x10件)	75,000	責任者一時立替え	75,000
合計	75,000	合計	75,000

* アドボカシーが掲載されるということで購読者をWGで15万円分(正会員なら15名)集めた場合、年度末に管理費より立替え分を精算する。

4) 草の根無償資金協力情報の提供

- * 通信費、現地国内での交通費などのみでそれぞれ自己負担。

(6) ネットワーク調査

単位(¥)

支出の部		収入の部	
通信費(〒)			
EMS通信費3カ国x2回	12,000	寄付	30,000
報告書送料(100部)	65,000	邦文報告書売上(千円x50冊)	50,000
印刷費(トレーニングまとめの英・仏語訳)	3,960	寄付	960
合計	80,960	合計	80,960

* 通常の通信費は電子メールを使用する。通信費は担当者個人負担。

* 最終報告書の印刷費は、助成金などをあたる(予算計上しえおらず)が見込めない場合は、会報特別号という形で印刷する。

(7) 出版物翻訳(2年間)

単位(¥)

支出の部		収入の部	
原本購入費(120+150+100FF)	8,000	出資金*4	90,000
出版物コピー代 (仏330/2枚+英330/2枚)x10円	3,300	AJFからの出資金	10,000
通信費	10,000	その他の出資金*5	?
説明用ちらし印刷代(10円x300部)	3,000	販売収入(千部x?)	?
ちらし作成グラフィックデザイン料	3,000		
ちらし印刷代(10円x2千部)	20,000		
翻訳代*2	900,000		
広告費*3	10,000		
完成品買い取り資金 (3500円(仮)x千部/2(仮))	1,750,000		
合計	2,707,300	合計	100,000
最小	47,300	最高	2,100,000

*1 アフリカの会のメンバーに無理を言って安く依頼

*2 沢山販売できた場合1000円～1500円/頁で払うという条件で依頼。翻訳の質を高く維持するためにプロを数人入れるか、プロにチェックを依頼する。

*3 広告媒体次第。書評、電子メディアなどできるだけ安く上げる

*4 本の内容を説明し、出資者(購入の前金として)を募る。(目標:30人、一口:3千円)

*5 共同出版等の形にすれば、出資を得られる可能性あり(但し、会社名が出ることが条件。金額は交渉次第。上限200万円) 翻訳本出版・販売の収益は、著者NGOに一部還元、一部AJF運営費として使用する。割合等は対象NGOと相談し決定する。

WGを作るのは貴方です。

1999年度のAJF事業として提案されているのは全頁までの8事業ですが、この他にもWGを作ることが可能なのが、新体制の大きく変わった点です。

WGを自分で作りたいと思われる方は、9頁にあるWGの部分を読んで、企画書を提出してください。やりたい活動、参加したい事業がなかったと思っている貴方、ご自分でアイデアを持ち込んで見ませんか？ 自分で企画書を書く自身がない方、会報には会員フォーラムの頁が今後も掲載されます。会員に呼びかけてみてはいかがでしょうか？

多くのWG案をお待ちしています。

尚、これまでAJF事務局が対応していた事業のうち、以下の2点はWGができていません。関心のある方、WGを作りましょう！？

WG担当者募集！

現代版地球徳政令・Jubilee2000（債務帳消し）キャンペーンを成功させよう！

今、世界各地で2000年までに最も貧しい国の返済不可能な債務を帳消しにしようという大きなキャンペーンが繰り広げられています。

国連が世界銀行が「重債務最貧国」としている国は、アフリカを中心に41ヶ国あります。先進国の「経済援助」が、南の国々に「負わせた」借金がどんどん膨らみ、債権者側が介入して返済を優先させるために、福祉や医療、教育が切り捨てられているのが現状です。現在、こうした多くの国では就学率は下がり、乳幼児死亡率が上昇し、失業率も増え、治安の悪化には軍事費の出費につながるという悪循環が子供や弱い人々を苦しめています。

国連は2000年をJubilee（ジュビリー）の年と定め、「21世紀にはすべての人が人間らしく生きられる世界の実現」を目指しています。現在宗教団体、NGO、労働団体等が中心となって40ヶ国以上に実行委員会がおかれ、重債務最貧国の債務帳消しを訴

えるため、世界中で署名運動が広がっています。日本でも昨年10月に実行委員会が発足し、TICAD IIの参加者、チョウルリー・ベヤニ氏が勉強会の講師として出席したことは、会報43号でもご報告した通りです。

現在、AJFはこの実行委員会の賛同団体として参加しており、主に情報発信の協力をおこなっております。また、吉田昌夫代表理事、尾関葉子事務局長も個人の資格で実行委員に参加しています。

今後、AJFの中で債務問題を考えていきたいメンバーの方、ぜひWGを立ち上げませんか？

関心のある方は、ぜひ事務局（尾関）まで。



このキャンペーンに関する小冊子「債務の鎖を打ちきるために」が発行されています。

お問い合わせは：債務帳消しキャンペーン日本実行委員会まで

事務局 101-0052 東京都千代田区神田小川町 2-1 檜ビル3階

アジア太平洋資料センター（PARC）気付 電話 03-3291-5901 FAX 03-3292-2437

電子メール parc@jca.ax.apc.org ホームページ：<http://www.jca.ax.apc.org/parc/jubilee>

イベント企画&物品販売をやってみませんか？

AJFでは毎年様々なイベントに参加しています。参加形態は、アフリカグッズ・AJF出版物の販売とお馴染みルイボスティーケーキ&ティー、エチオピアのシチュー“ドロワット”の販売、パネル展示など。アフリカフリークやNGOの人たちに出会えるチャンスがいっぱい、楽しい講座やワークショップにも参加できます。時間の都合さえつければ難しいことはありませんし、必ず全てのイベントに参加できなくても大丈夫。イベント・コーディネートを担当してくださる方を募集中。

<<特典いっぱい>>

❖AJFの仲間やアフリカフリークに出会えます。

❖ジェンベのライブ、アフリカン・ダンスに参加できます。

❖アフリカ・開発に関する講座に参加できます。

❖お料理を用意してくれる方を募ります。

❖販売するものを事前に準備します。

❖イベント終了後お金の清算をします。

<<今年の予定>>

10月：国際協力フェスティバル

<<主な業務内容>>

❖当日お手伝いしてくれるボランティアを募ってスケジュールをたてます。

<<問い合わせ>>

事務局 奥田まで

♣ ♦ ♥ ♠ Event Calendar~98年の場合~ ♣ ♦ ♥ ♠

February

●
千代田フォーラム（女性の自立に関するイベント。NGO支援コーナーで物品販売を行いました）

March

●
調布アースディ（AJF設立以来毎年参加してる調布駅前で開催されるイベント）

●
東京地球市民フェスタ（両国の江戸東京博物館で開かれました。当日は多数のNGO団体が参加し、博物館内の施設を使って様々なイベントが開かれました。）

July

アジャ・アディコンサート（ガーナのパーカッションスト、アジャ・アディさんのコンサートで物品販売をしました。ボランティアの面々もライブ&ダンスワークショップを大いに楽しみました。）

September

●
アフリカフェスティバル（AJFの理事でもあります古澤先生のゼミ生が主催したイベントに参加しました。）

October

●
国際協力フェスティバル（国際協力の日を記念して毎年、日比谷公園で行われるイベント。NGO、ODA実施機関などが一

堂に会し三日間に渡って様々な催しが行われます。98年はAJFで“アフリカ・ブース”をコーディネートしました。）

November

●
アフリカへの経緯（アフリカ好きには絶対はずせないイベント。ジェンベライブ、ダンス、アクセサリー教室、壁画アートなど、とにかくアフリカに関するありとあらゆる企画が盛りだくさんです。在日アフリカ人も多数参加しています。）

●
みなとみらい21フェスティバル（プログラムの一つ、エスニックレストランでアフリカ料理を披露します。）

お知らせ

ジンバブエビザ必要に

98年12月1日より入国時にビザが必要になりました。空港・国境でUS\$30で取得可能です。有効期限は3ヶ月。在日ジンバブエ大使館では発券業務を行っておりません。

<1~2月事務局訪問者>

会員の吉田昌夫さん、高瀬国雄さん、千葉茂樹さん、古澤紘造さん、長門真理さん、望月克哉さん、壽賀一仁さん、松谷曜子さん、楠田一千代さん、門敦之さん、佐藤由規さん、三好智子さん、深井善雄さん、菊山ひじりさん、内野香美さん、獅子学さん、渡瀬のり子さん、バヤキッサ・アントレイさん、本田真智子さん、佐久間典子さん、斉藤龍一郎さん、永岡宏昌さん、安田馨さん、小峯茂嗣さん、平山恵さん、加々見千晶さん、浅井麻紀さん、ボランティア：高田敦史さん、三田幸夫さん、訪問者：HINT 普川容子さん、東京新聞 吉田雄一郎さん、熊本市国際交流振興事業団 八木弘光さん

*****1~2月事務局日誌*****

1/5 運営委員会及びアフリカ連絡会。1/8 スタディツアー（以下ST）ミーティング。1/11 ST説明会。1/18 ST第1回勉強会。1/22 FASID研修へ奥田が参加。1/25 ST第2回勉強会。1/26 運営委員会。1/28 恵比寿社会教育会館にて尾関が講演。「ODA改革するための市民・NGO連絡協議

会」に奥田が出席。1/29 勝俣先生に講師をお願いし理解講座を開催。1/30 遅れに遅れた会報43号の発送。24Pはずっしりと手応えあり。1/30 神奈川地球市民プラザで尾関がパネリストとして出席。2/1 ST第4回勉強会。2/3 アフリカ連絡会。ODA/NGO小委員会に尾関が出席。2/4 恵比寿社会教育会館で望月運営委員が講演。2/5 FASID研修。2/6 ビジョン99第5回会合。6月に始まったビジョンの最終会合が開かれました。2/8 理解講座開催。尾関事務局長がアフリカNGOのことを話しました。2/13~14 ST合宿。アフリカ文化紹介、ウオロフ語講座ありの盛りだくさんの内容でした。2/15 運営委員会。2/16 債務勉強会。2/19 FASID研修。2/20 理事会。2/20~21 静岡でふじのくにワールドフェアに参加。2/21 ST第6回勉強会。2/24 セネガルスタディツアーいよいよスタート！いってらっしゃい！奥田は国際協力フェスティバル実行委員会に出席。2/27~28 NGOどまんなか会議（名古屋）に尾関が出席。

●編集後記 ▼組織強化と活動の自由さを兼ね備えた体制にしたいと思っています。総会に出られる方、ぜひぜひご意見を！（葉） ▼春の到来とともに、生物は眠りから覚め、芽吹き始めています。さあ、あなたもAJFで新しい風を吹かしてみませんか？（MA坊）

●43号発送ボランティア：佐藤由規、門敦之、篠崎節子、奥田麻緒

●編集スタッフ：尾関葉子、名畑剛、奥田麻緒

アフリカ日本協議会では活動を支えてくださる会員を募集しています

○新規会員

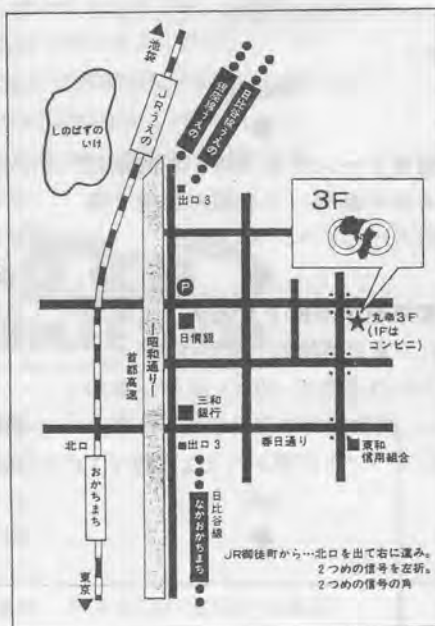
浅井麻紀（小金井市）
伊藤 環（世田谷区）
小林大介（秦野市）
坂口裕子（江戸川区）
佐藤秀子（墨田区）
三條香織（フランス）
鈴木崇夫（札幌市）
高松紳也（大田区）
田中陽子（横浜市）
境勝一郎（八王子市）
岡本敏樹（チャド）
川瀬淳一（世田谷区）
嶋本恭子（杉並区）
宮本京佳（世田谷区）
後藤裕子（小金井市）
森川容子（セネガル）
岩城 拓（尼崎市）
徳永瑞子（筑後市）

○協議会の主な活動

（日本国内向け）
・国内のアフリカに関する団体・個人のディレクトリー作り
・NGO活動に関する情報提供、広報協力、政府・国際機関との連絡調整
・アフリカに関する理解講座の開催、講師派遣、情報提供・会報の発行（アフリカ・欧米向け）
・現地調査
・国際会議への参加、政策提言
・NGOとの情報交換・連絡調整

○会員になって下さい！

会員には会報やイベントの案内、物品・書籍の割引などの特典があります。
年会費
正会員 1口 1万円
学生会員 1口 6千円
賛助会員 1口 5万円
○寄付金、会費は下記の講座をお願いします。
郵便振替
000120-3-573276
アフリカ日本協議会
銀行口座
さくら銀行神田橋支店
普通口座 3492678
アフリカ日本協議会



○2/1付 会員登録者

265人

○内、会費切れで会報発送を止めさせていただいた方

3人